

「劇団あとむ」がやってきた 児童劇公演に子供たち歓声

8月3日、「劇団あとむ」による児童劇が、母と子の館で行われました。

この事業は、財団法人児童健全育成推進財団が、子ども達の心の成長を促すことを目的として、厚生労働省の委託事業として毎年夏休み期間を中心に行われている児童劇巡回公演。今年度は、道内で洞爺湖町のほか、北広島市、上富良野町、当別町の4市町が採択されました。

会場では、約100人もの子供たちが集まり、9人の劇団員

による児童劇をはじめ、ステージ上でボールや棒を使って児童といっしょに遊ぶなど、楽しい1日を過ごしました。



子どもと一緒に遊ぶ「劇団あとむ」のステージ

夏休みに総合交流を行っている箱根町から、箱根町親善訪問使節団（団長＝二見栄一箱根中学校長）が、8月5日



雪蔵見学で雪の山を見て驚きの表情を見せる箱根の中学生ら

2泊3日の日程で当町を訪れました。来町したのは、箱根中の3年生6人と引率者2名。

歓迎式では、蓮井勇教育委員長が、「しっかり学び合って、若い力が地域に貢献していけるようがんばってください」と挨拶。同中の小林凌くんが「洞爺湖町のよいところを学んで、きづなを深めていきたい」と決意を示しました。

滞在中は、雪蔵の見学やカヌー体験、洞爺中学校への訪問など交流を深め、楽しい思い出を胸に刻みました。

箱根町の中学生来町 地元中学生と交流深める

平成25年度の虻田地区戦没者追悼式が、8月7日約40人の遺族ら関係者が参



白い菊を捧げる遺族ら

列し、青葉忠魂碑前で行われました。

式典では、全員の黙とうの後、真屋町長が「謹んで追悼の誠を捧げます。平和と繁栄が末永く続きますようご祈念申し上げます」と式辞を述べました。

引続き、北海道知事、洞爺湖町議会議長、北海道連合遺族会、洞爺湖遺族会会長が、戦没者に追悼の言葉を述べ、参列者全員が、菊の花を捧げて冥福を祈りました。

洞爺地区でも7月24日同追悼式が、忠魂碑前で行われ、参列した約35人が同様に戦没者の冥福を祈りました。

戦没者追悼式 永遠の平和を誓う

薬師の日湯かたまつり 温泉街の繁栄を祈願

8日の薬師の日にちなみ、8月8日「薬師の日湯かたまつり」（湯前薬師如来奉賛会主催＝朝倉英隆会長）が、足湯ポケットパークとにぎわい広場を会場に開かれました。

同パーク内にある「湯前薬師如来堂」前で行われた法要祭では、約30人が参列し、洞爺湖温泉の繁栄と安全を一人ひとりが祈願。最後に朝倉同奉賛会会長が「これからも引き続きお堂を守り、力を合わせて地域を盛りたてよう」と挨拶し、法要祭を終了しました。

にぎわい広場では、焼き鳥などの露店が出され、住民ら

は、お菓子まきやビンゴ大会などを楽しみました。



温泉街の繁栄を祈願した法要祭